

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月24日

【評価実施概要】

事業所番号	0170201107		
法人名	有限会社 篠路愛護苑		
事業所名	グループホーム 第2からまつ		
所在地	札幌市北区拓北4条3丁目10番17号 (電話) 011-775-4731		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年10月21日	評価確定日	平成20年11月5日

【情報提供票より】 (20年10月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	14年	11月	14日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人			
職員数	17 人	常勤	14人,	非常勤	3人,	常勤換算	14.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	3階建ての	2~3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費20,000円 暖房費(11-3月)10,000円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1月当たり 40,000 円			

(4) 利用者の概要 (10月10日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	6名	要介護2	4名		
要介護3	6名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均 84.3歳	最低	69歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	札幌優翔館病院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

札幌市郊外の田園地帯に開かれた閑静な新興住宅地に位置する。広い畑があって利用者を楽しみを提供し、収穫物を近所にも配って地域交流に役買っている。社員寮を改装した鉄筋コンクリートの堅固な建物である。歳をとって心身が不自由になっても地域の中で安心して普通の生活ができるように、という理念を大切に、実践されている。利用者は職員と忌憚のない関係で心を開き、家事なども自然に協力し合いながら、明るい笑いに包まれている。地域の人々とはよく馴染み、町内会、住民ボランティア、コンビニなどとも親密な協力関係が築かれている。医療連携体制がとられて、健康管理や緊急時に備えての、安心な態勢が整えられている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で、改善課題は特に指摘されていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員に自己評価表を配布し、1ヶ月かけて各人が記入したものを管理者が取りまとめ評価を作り上げた。日常業務の中では見えにくい点に気づき、介護の基本に立ち返り、認識を新たにす機会として積極的に活用されている。居室の環境整備などの改善につながっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月毎に定例で開催されており、町内会会長・厚生部長、民生委員、歯科医院長、地域包括支援センター担当、家族、利用者が参加して、グループホームや認知症高齢者への理解の普及、ホームでの生活ぶり、事故やヒヤリハットの事例、災害訓練その他の協力関係、地域のボランティア紹介や高齢者の利用できる地域資源情報などについて討議され、それらの情報が実際に活用されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	日ごろから家族には気軽に忌憚なく話してもらえるような雰囲気作りに心がけている。話しにくいことも注意深く察知するように努めている。家族から指摘を受けた点は申し送りで伝えるとともに連絡ノートに記載して職員全員が共有し、改善につなげている。必要な場合は担当職員から当該家族に報告する。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入して、会議、清掃活動、花壇づくり、資源回収、夏祭りなどに積極的に参加している。ホームの行事には地域のボランティアに依頼して、楽器演奏、工芸指導などの協力を得ている。近隣のコンビニとは災害避難などについて協力関係を結んでいる。ホームの畑で取れた作物は近隣にも配り、それに対するお礼が来るなど、親しい関係が築かれている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	歳をとって障害があっても、自然や地域の中であたりまえの生活ができるような介護を目指す、という趣旨の、法人の運営理念と、楽しく笑って過ごせるような生活を作る、という、事業所独自の介護理念を作り上げている。	○	介護理念は昨年、職員が参加して独自に作り上げたが、法人の理念についても適切な用語などを吟味して独自のものを作りたいとの意向なので、期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は廊下とリビングに貼り出しており、毎朝の引継ぎのときに職員が読み上げている。職員は理念自体の大切さと、その内容をよく理解しており、日々の介護実践の目標として認識している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入して、各種行事に積極的に参加している。ホームの行事には地域のボランティアに協力を得ている。近隣のコンビニとは災害避難などについて協力関係を結んでいる。ホームの畑で取れた作物は近隣にも配り、それに対するお礼が来るなど、親しい関係が築かれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員に自己評価表を配布し、1ヶ月かけて各人が記入したものを管理者が取りまとめて評価を作り上げた。日常業務の中では見えにくい点に気づき、介護の基本に立ち返り、認識を新たにす機会として積極的に活用されている。居室の環境整備などの改善につながっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に定例で開催されており、グループホームや認知症高齢者への理解の普及、ホームでの生活ぶり、事故やヒヤリハットの事例、災害訓練その他の協力関係、地域のボランティア紹介などについて討議され、それらの情報が実際に活用されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	当施設の管理者が北区のグループホーム管理者会の役員をしていることから区役所との行き来は頻繁である。利用者との金銭トラブルなど困難事例では相談し、助言を得ている。市や区の会議や研修会には積極的に参加して情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が来訪した際には利用者の暮らしぶりやエピソードなどを、写真も交えながら詳しく伝えている。ユニットごとに通信を発行して行事などホーム全体の様子を知らせるとともに、個々の利用者ごとの様子を、各担当の職員が「一筆レター」の形で添えている。	○	連絡の内容として、職員の異動についてもその都度知らせることを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日ごろから家族には気軽に忌憚なく話してもらえような雰囲気作りに心がけている。家族から指摘を受けた点は申し送りで伝えるとともに連絡ノートに記載して職員全員が共有し、改善につなげている。必要な場合は担当職員から当該家族に報告する。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の待遇に気を配るなどして離職を極力抑えている。離職に伴う補充採用はできるだけ早くして引継ぎに最善の努力をしている。新入職員は、利用者になるべく多く声をかけ、個別に部屋でゆっくり過ごす時間を取るなどして、利用者へのダメージを少なくしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、介護支援専門員はそれぞれの分野で研修に参加しているが、一般職員については、受講の機会を紹介して受講を奨励しているものの、各ユニットで年に数回止まりと、少ない。内部研修も不定期で、多くはない。	○	年間計画を立てて受講回数を確保するよう、また受講者の業務上の扱いや費用負担も検討して、育成に努めるよう、期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北区の管理者連絡会で同業者との交流が行われており、相互訪問による見学などの話し合いも行われているところであるが、一般職員についてはまだ組上に上っていない。	○	管理者レベルによる相互訪問、見学の実現を図るとともに、一般職員についても交流の機会を持てるよう、同業者との話し合いの進展を期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族、または本人同行によるホームの見学から始めており、ホームの造り、雰囲気、職員や他の利用者の様子を見て納得してから入居となるようにしている。入居当初は不安もあるので、できるだけ職員がそばに付き添い、家族の来訪や一時帰宅などで安心して馴染んでいけるよう、努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が忙しそうにしているときは利用者が手伝い、職員が気づかないことを教えてくれたり、それに対して職員が感謝の気持ちを述べるなど、ともに支えあう関係が築かれている。職員は利用者を人生の先輩として尊敬しており、多くを学んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用して思いや意向の把握に努めている。意思疎通の困難な利用者については、わずかな行動の変化や表情、姿勢の傾きなどを注意深く観察することによって、希望や訴え、心情を汲み取るように心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向については日常生活での観察を通して把握し、家族や医療関係者からの情報を包括して介護計画を作成している。申し送りや職員会議で課題についての検討を行い、様子を観察していくことで課題として取り上げていくのかを判断している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月毎に定期的に介護計画の見直しを行っている。夜勤者や公休の職員の意見を取り入れることができるよう事前に用紙を配布し、職員会議で検討しており、定期的見直し以外にも毎朝の申し送りで話し合いをしている。歩行が不自由になった利用者の移動方法について、本人が参加し自己決定への支援を行ったことがある。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を整えており、訪問看護や訪問診療を活用することで入院を回避している。家族がかかりつけ医への通院介助をすることが難しい場合は事業所に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にはかかりつけ医を継続して受診できることを説明している。本人や家族の希望を尊重し、認知症の専門医は変更しないよう配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に重度化した場合の対応については書面を取り交わしている。「事業所は終の棲家」という認識をもち、看取りを行っていくことを検討したいと考えている。看取りについては入居時に話し合いは行っているが、事業所としての具体的な方針は決めていない。	○	入居時の早い段階で本人、家族、医療関係者と事業所とで看取りの方針を共有することができるよう、期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレへの言葉をかける時には羞恥心に配慮している。また、個人の記録に他の利用者との係わりを記録する時は実名を出さないようにしている。申し送りの際には、イニシャルで話し合い、個人情報の記録は事務室に保管することでプライバシーを確保している。	○	面会ノートの形式を検討することでプライバシーの確保ができるよう、期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	掃除や調理、体操、レクリエーション、入浴などの日課はあるが、その日の体調や希望によって柔軟に対応できるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の作成と食材の配達には業者に委託しているが、旬の食材を用いた食事や外食に出かけるなどの工夫をしている。行事食では、バイキング形式で食事を楽しんでいる。全員が食卓に揃ってから「いただきます」と挨拶をし職員も共に食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月曜日から土曜日の午後に入浴の時間を設けている。入浴回数の少ない利用者を優先しているが入浴することが難しい場合は清拭や足浴などを行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの利用者と居間で一緒に過ごす時間を大切にし、観察を通して「できること」と「できないこと」「準備をすることでできること」「一緒にすることでできること」などを把握している。七夕の飾りつけや千切り絵などを楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	社員寮の2階と3階を改装しているが戸外に出るためには階段とエレベーターを使うことになり、散歩は週に2回ほどである。近隣には公園が多く、季節や天候の状況に応じて外出の回数を増やしていきたいと考えている。	○	五感への刺激や地域との交流を図る機会として外出の回数を増やすことができるよう、期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害は理解しているが、以前にエレベーターを使い階段を降りて外出した利用者があり、安全のためにその日の状況に応じてユニット間の扉は施錠している。	○	職員体制を検討するなどの方法での外出対応や鍵をかけないケアの実現に期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、消防署の指導の下に利用者、町内会が参加し避難訓練を行っている。運営推進会議の議題に取り上げたことで町内会の協力を得ることが可能となった。災害訓練記録には、避難経路や手順、緊急連絡先を明らかにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量が少ない場合は、ジュースやゼリーで補うようにしており、一日の食事量と水分量を記録することで過不足を把握している。食べやすいように煮物やお浸しは柔らかく調理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の壁に利用者と職員の顔写真を額に入れて掲示し、行事の写真の周りに栗や紅葉を飾り付けて季節感を採り入れている。共有の洗面所は足元の収納扉を改装することで車いすの使用を可能にしている。一人で過ごす時間が持てるように廊下の突き当りにベンチを置くなどの工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、大型のクローゼットが備え付けられており、使い慣れたものを収納することができるようになっている。入り口の段差にスロープを設置し、安全に配慮している。家族と協力し、カーペットを敷いて座って過ごすことができるような工夫をしている。	○	本人の持ち物が少ない利用者には、家族の協力を得て居心地よく過ごせる居室づくりができるよう、期待したい。

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。